

令和6年度「第3回香々地宇宙学校」事業報告書

1 事業内容

(1) 趣 旨 星の勉強会や星空観察会等香々地の美しい星空に触れる活動を通して、宇宙科学や星空への興味関心を高めるとともに、豊かな感性を育む。

(2) 対 象 県内在住で小学生を含む家族12組

(3) 期 日 令和6年12月14日(土)

(4) 日 程

時刻	内 容	場 所
17:00	受付	管理棟玄関
17:30	開会行事 諸連絡	創作室
18:00	望遠鏡を作ろう(小崎)	創作室
(18:30)	～月を見よう(藤川)	海の見える駐車場
19:00	流星群のお話(藤川)	プラネタリウム館
19:45	流星群を見よう(藤川)	海の見える駐車場
20:30	おふろに入ろう	本館宿泊棟浴室
22:00	最終解散	

2 参加者数 11家族35名(申込12家族40名)

3 満足度 満足・やや満足100%(4…11、3…1)

4 参加者の声 アンケート参照

5 活動の様子



望遠鏡作成①



望遠鏡作成②



望遠鏡完成チェック



流星群のお話



観察会①



観察会②

6 成果と課題等

(1) 成果

・望遠鏡作成の満足度が高い

キットのため作成が短時間で失敗がない。

作成から月観察まで、保護者が子どもを寝ける姿（家庭教育の場）を多く見ることができた。

・星空への興味関心を高めることができた

自分たちで作った望遠鏡を持ち帰ることができることで、星空に対する興味関心が広がり深まったと思われる。

(2) 課題（太字ゴシック：第1回宇宙学校時の課題）

・観察会参加者の満足度が低い⇒概ね解決

観察会時に雲がかかり、満足に観察することができなかった。学習会時に屋外と空状況の連絡を取り合い、プラネタリウムで疑似体験をするなどの工夫が必要である。

⇒定期的に連絡を取り合い、空状況を把握した。

その結果、「流星群のお話」を15分延長することにした。

曇り空のため、満足に流星を観察できなかったが、時折「木星」や「土星」が見えていたため、天体望遠鏡で観察することにした。

作成した望遠鏡で観察しようとする姿を見ることができ、意欲を感じられた。

・観察会の定員を再考する⇒継続検討

今回、配布できるキャンピングマットの数量で定員を50名程度と考えた。

マットの経年劣化が懸念されるため、次回は参加者に持参させ、定員を増やす方向で考えたい。（注意！布団干し専用ブルーシートは使用不可）

⇒屋外用イス・テーブルを準備できる参加者には、持参の依頼をした。

貸出用イスを用意した。（レク室からカートごと移動）

「ごろ寝の観察」はとても魅力的だが、イス使用の観察でも参加者からの不満は耳にしていない。

イスには余裕があるため、60名程度までは観察可能である。

今回は、キット作成のため12組と限定した。

(3) その他

・流星群観察時、お湯を提供したことに、感謝の言葉があった。今後も継続したい。

別館玄関にポット2台とカセットコンロでお湯を沸かした。

当初は、焚火でお湯を沸かす計画だったが、強風のため断念した。

焚火を囲んだ星空観察は、大変魅力的だと考えている。